

日風園

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第78号 2012年3月31日

資料見聞

鯛肴入たいさかないれ

強烈な赤、銀色に光る鱗、ピンとはねあがった尾、口には小さな歯まで、全長77cmの堂々たる鯛です。と言ってもよく見ると、えらや尾の付け根に蓋と本体の境目が見えています。

そう、これは鯛をかたどった容器なのです。おなかの蓋を開けると中は赤い塗りの器になっています。

このような立派な入れ物にはどんな料理を入れたのでしょうか。箱には「鯛肴入」と書かれています。では刺身？とするのはやや速断のようです。宮川逸雄氏の『土佐流おもてなし 皿鉢・たたき・節会』（高知新聞社）には、皿鉢料理のなかの大平に「タイ、カツオなどをかたどったものもある」と記されています。大平は、ハモやタイのすまし汁など汁物やみつ豆、そうめんなどに用いる蓋付きの器で、普通は丸い形をしています。



鯛肴入
日高村本郷
箱には「嘉永二酉歳二月吉旦於」などの銘がある。嘉永2年は1849年。

蓋を開けたところ

鯛は、めでたいの語呂合わせから縁起の良い最高の魚とされ、お祝いの席に尾頭付きの鯛は定番です。福神の恵比寿様も鯛を抱えています。鯛の肴入はふだんは箱に入れて蔵などに収められ、婚礼や神祭の時に用いられ、めでたい気分を盛り上げたことでしょう。この容器を見た時の人々の驚いた顔が目に見えます。（梅野光興）

企画展 蔵のなかの民具たち

会期 平成24年4月28日(土)～6月10日(日)

梅野 光興



香美市の蔵



香美市や香南市には立派な鏝絵のある蔵が見られる。左は香美市の鳳凰、下は香南市の夫婦の初日の出



いざなぎ流のえぶすの倉入れ。富男を先頭に太夫たちが行列をなす。近年珍しくなったこの行事を5月4日(金)に再現します。



蔵に祀られていた恵比寿の祠

水切り瓦のある土蔵は土佐の風物詩です。香長平野を車で走ればすぐにひとつやふたつの蔵に出会うことができますでしょう。最近では国の登録文化財になってきているものも多く、

比較的訪ねやすくなりました。しかしながらその一方で、生活の変化や世代交代に伴って蔵は少しずつ減ってきています。当館にも「蔵を壊すので必要な民具があれば寄贈したい」とのお電話がよくかかってきます。どうやら蔵はその役目を終えつつあるようです。

今回の企画展は、蔵からご寄贈頂いた民具を中心に展示して、蔵のある暮らしを再考したいと思えます。

今回の企画展は、蔵からご寄贈頂いた民具を中心に展示して、蔵のある暮らしを再考したいと思えます。

蔵の民俗

蔵は、どの家にもあったものではありません。庄屋や地主の家など上流の家や裕福な家に限られています。

弥生時代の遺跡をみると、クラはもともと米など穀類の貯蔵庫だったようです。古代の律令では、クラは用途によって文字が書き分けられています。「倉」は米穀類、「蔵」は調庸や諸国の貢ぎ物、「庫」は兵器や文書でした。クラの機能がさまざまに分化していったことがわかります。米蔵、味噌蔵、道具蔵など用途に

応じて蔵を建てるような大きな家もありました。いくつもの蔵が建ち並ぶ様子は長者の屋敷の姿として数多くの物語に描かれています。

蔵は豊かさや富の象徴でした。

香美市物部町に伝わるいざなぎ流には「えぶす(えびす)の倉入れ」という行事があります。四つん這いになった家の主人を馬に見立て、背中に酒やお金、米を乗せてえぶす様の棚まで持つて行くのです。その時、太夫は「お倉入れしようや富男」と楽しげに歌います。蔵のない家でも、えぶす様の棚をその家の蔵に見立てて、米やお金などの富が舞い込む様子を演じているのです。

また、中世には幻想の産物を収める蔵もありました。宇治の宝蔵には、源頼光が退治した酒呑童子の首が収められていると言われていたのです。蔵は実際の用途だけでなく、王権を支えるオブジェの保管庫ともイメージされたのです。

土蔵は、商業が発達すると、中世の京都では盛んに造られるようになったようですが、庶民に普及するのは江戸時代中期以降だといえます。分厚い土壁で囲まれた土蔵は湿気を遠ざけ火災にも強かったのです。町中では、延焼を防ぐために土蔵を作ったり、建物を土蔵造りにす



皿



枕



ていびく
手燭。
中にロウソクを立てる。



皿鉢



酒器



皿や椀はセットで木箱に入られていた。



皿鉢をのせる物据え



膳

ることもありました。土壁作りは左官の仕事で、職人は自分の手がけた蔵に鏝絵などの装飾を施すこともありました。土佐では、香長平野を中心に県東部に土壁作りの蔵が多く、香南市野市町や香美市土佐山田町の蔵には、龍や虎、恵比寿大黒などさまざまな鏝絵が見られます。

蔵のなかの民具

蔵（倉）に入れていた物を探ねると、大抵、お米などの穀物、そしてふだん使わない「お客（宴会）」の道具や長持に着物やふとんなどが入っていたという答えが返ってきます。大事な古文書類も保管されていたようです。家でお客をしていた時代には、道具一式を家で揃えることがその家のステータスになりました。珍しい道具を出して宴席などでお披露目することが自慢だったのです。

ところが、そのような習慣がすたれ、仕出し屋に料理を頼むようになると、お客の道具は不要になり、蔵の中でほこりかぶるようになりました。最近では家で宴会をすること自体が減ってきています。

こうして、蔵はひとまず不要だがすぐに捨てるには惜しいものを収納する場所になりました。要らなくなった道具や衣類、家具などを、ひとまず蔵に入れておくようになったのです。私たちが調査に入った蔵には、いろんな雑多な道具が押し込められていました。そのような蔵はさながらタイムカプセルです。

今回の企画展では、佐川の豪農・堀見家の蔵にあった道具をはじめ、私たちが収集活動のなかで出会った蔵のさまざまな民具を紹介します。

失われる民具

最近では「断捨離」が提唱され、物をストックする生活は過去のものになりつつあるようです。しかし、蔵には思いがけない古い物が眠っていますし、それらの多くは未来に向けて過去を物語る貴重な証言者です。全部は無理でも、私たちは、歴史や文化を守るために少しでもこれらを後世に伝えたいと考えています。この企画展が身近な蔵を見直し、少しでも過去の文化を未来へ残すきっかけになれば幸いです。

民具調査にしひがし

かみ 香美市 物部町

増え続ける館蔵民俗資料の一部を、旧大栃高校の体育館と格技場に保管しています。これをきっかけに県立大学の協力を得て物部町の民俗調査を始めました。
24年度には香美市教育委員会や村役場OBの小松英介さんと連携して、民俗・言語調査に加えていざなぎ流の調査も予定しています。



旧大栃高校に保管されている民具



旧大栃高校の体育館で、民具を使って使用法の説明

2011年9月27日から29日まで、「フィールド実習Ⅱ」に、3回生4人が参加しました。初日は、現在は廃校となった大栃高校に保管されている民具を囲み、地元の方から聞き取り調査を行ない、2日目と3日目は、班に分かれて地域別に調査を行ないました。神池や朗賀地区では暮らしや方言について、また太夫である森安さんから貴重な「いざなぎ流」についての話も伺いました。焼畑の習俗や森林鉄道のことなど、昔の暮らしについて知ることができました。調査のお世話をして頂いた小松英介さんをはじめ、地元の方々に厚く御礼を申し上げます。

(3回生：高橋沙英子)

**旧大栃高校
民俗資料一般公開
6月2日(土)・3日(日)**



当館では、平成21年度から高知県立大学(22年度までは高知女子大学)文学部の橋尾直和教授と協力して、県内市町村の民具調査や整理へのアドバイスを行なっています。その主力は県立大学の学生たちです。東洋町、香美市物部町、三原村、広しい高知県を西から東へ股に掛けた調査の様子を学生の声をまじえてご報告します。

(梅野光興)

私たちは、室戸高校甲浦分校跡に保管されている民具の整理・分類や、特徴を把握するためのスケッチと計測を行ないました。地元の方々には、民具の名称や使い方についてうかがいました。山路洋さんには、足踏み脱穀機の動かし方や海で使っていた縄結びの方法を実演していただき、横川照さんには、特産であるボンカン作りのお話をうかがい、昔の人々の知恵に驚かされました。何もかも初めての私たちの質問にも、笑顔で丁寧に答えていただきました。実際に足を運び、地元の方々に話を聞くことができ、大変有意義で貴重な体験ができました。

(2回生：伊藤叶絵)

東洋町が収集している民具を、当館の資料調査員でもある原田英祐さんや教育委員会のお世話で、平成21年度に1回、24年1月に2回調査しました。24年度も継続します。



東洋町

衣食住など用途別に分類された民具を1点1点スケッチ



高知県全域の民俗・言語調査を目指して

橋尾直和

文化資源に命を吹き込もう！そう思うようになったのは、高知県が1995年から2000年まで行なった「土佐弁ルネサンス事業」に、世話人として参加したことがきっかけでした。消えゆく「土佐ことばの記録・保存および活性化」をテーマとして掲げ、高知県内の限界集落の方言調査を行なうようになりました。ことばと同時に習俗について調べていくと、暮らしの中で使われた民具との出会いがありました。私は、方言そのものを調査するだけでなく、暮らしと文化とそこで培われた民具の方言呼称も一緒に調べて、記録・保存していくことの重要性に気づきました。

2001年から2003年には、文部科学省とユネスコが連携して行なった、科学研究費「環太平洋の危機に瀕する言語の緊急調査」という

プロジェクトに参加しました。その際、「高知県の限界集落の危機に瀕する言語・民俗調査」を実施しました。この調査には、民具および民具の方言呼称の調査も含まれており、県立歴史民俗資料館の前館長の坂本正夫さんや学芸員と共同調査しました。

かつて焼畑が行なわれていた、旧吾川郡池川町（現・仁淀川町）の椿山（つばきやま）という集落に調査に行つた際、焼畑の習俗と民具に出会いました。そこで使われている、枝豆などを脱穀する竹製のカラサオ（唐竿）という民具は、持つ方をカラサオのオヤ（親）と言い、くるくる回る方をカラサオのコ（子）という独特な名称を使っていました。方言呼称にも地域の独自性が見られるのです。これも地域の固有の文化ということになります。

言うなれば、目に見えない「文化」というものを、目に見える「民具」がつかないでくれていることが分かったのです。地域の暮らしと文化

を、民具を介した聞き取り調査によって明らかにしていく作業が大切であることを実感しました。こうして、旧池川町・旧物部村・椿原町、続けて三原村・東洋町・大豊町の民具調査を手がけるようになりました。香南市・香南市には、アドバイザーとして協力させていただきました。

これらの民具調査は、高知県立大学文化学部と県立歴史民俗資料館が連携して行なっています。高知県内には、まだまだ数多くの民具が目の目をみることなく眠っています。これらの民具を調べると同時に、消えゆく伝統的方言も記録・保存し、さらに活用できるようにしたいと考えています。民具研究のバイオニアである洪沢敬三は、自宅の中に民具を収集し、「アチック・ミュージアム（屋根裏の博物館）」と名付けました。ここから日本の民具研究が発せられたのです。私たちが目指すのは「土佐のアチック・ミュージアム」です。

（高知県立大学文化学部教授）

おとよ 大豊町

じょうふくじ とよなが
定福寺豊永郷民俗資料館には、2595点の国指定重要民俗文化財「土佐豊永郷及び周辺地域の山村生産用具」を中心に1万点を超える民具が集まっています。建物の老朽化が進んだため、平成26年度をめどに新しい収蔵庫を建てる予定です。民具の展示について助言しています。



農具や運搬具が所狭しと並ぶ。平成23年6月18日に四国民具研究会・日本民具学会のメンバーが見学した。

みほら 三原村

教育委員会からの要請を受けて21年度から22年度にかけて民具調査を行ない、約500点のカードを作成しました。23年度は当館での企画展や村内での展示を目標に年中行事調査を進めました。



したぎり おとめ
下切の老止クラブのおばあちゃんたちに藁細工を習う

私が三原村の民具調査に参加したのは、2010年から2011年、2年がかりの調査も終盤にさしかかった時期です。衣食住、仕事、信仰など用途別に分類された中から、林業に関わる民具調査を担当し、スケッチ、写真撮影、計測、聞き取りを行ないました。調査をしていると、同じ高知県でも、普段交流する高知市内の方や友人とは違った、三原村の方言を聞くことができ、ことばの地域差・年齢差を実感しました。また、地元の方々に教えていただきながら、ヒニノ（日蓑）やホゴ（畚）をコマセで作製し、当時の暮らしを身近に感じることができました。（3回生：川久保雅理）

こうなん 香南市

教育委員会が行なっている民具の整理作業に協力しています。

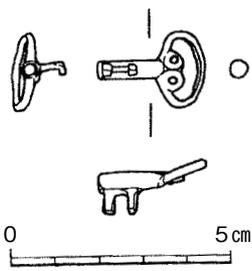


香南市文化財センターの応援も得て分類整理

考古

岡豊城跡から出土した鍵

倉という用語は、物を収蔵するための建物の総称として用いられています。倉の建物は、湿気や害を及ぼす獣などから守るために高床構造とすることが多いようです。すでに、弥生時代には倉があったことが出土遺構や遺物、そして銅鐸などに描かれた絵画から知られています。その構造は高床式倉庫で、稲倉と考えられています。古墳時代には、大きな倉が出現してきます。土佐市居徳遺跡群からは倉に用いられたと思われる長さ268cmのコウヤマキの梯子が出土しています。



鍵『岡豊城跡 第1~5次発掘調査報告書』1990年より

土蔵は木を用いた構造で、防火や防犯などを目的として土の壁を厚く塗った倉庫建築の一つの形式とされています。古代より土倉はみられます。中世では『春日権現験記絵』に火災で焼け残った土蔵が描かれており、その構造を知ることができます。福井市一乗谷朝倉氏遺跡では土蔵跡が確認されています。近年においては滋賀県関津城遺跡で戦国期の城郭から地覆石を基礎とし、壁を立ち上げた土蔵が発見されています。さて、宝物保管のためとする蔵には扉に錠前が必要です。一乗谷では錠前と鍵が出土しています。やはり蔵と錠前は切り離せない物なのでしょう。そういえば、南国市岡豊城跡からは、蔵

(岡本)

歴史

震災を生き延びた元親書状

「長宗我部元親公の手紙を持っているのですが…」それは一本の電話から始まりました。

電話の主（A氏）は宮城県の方で、売却を前提に交渉したいとのこと。聞けば、数年前に元親に心をもち、ある筋から入手していたものかどうか。一刻も早く現物確認が必要と感じた私は、昨年9月、仙台に旅立ちました。途中福島を過ぎたあたりから、河川の堤防や民家・寺社の屋根に無数のブルーシートが被せられているのが車窓から見え、複雑な心境になったことを覚えています。

さて、待ち合わせ場所の仙台駅のホテルで拝見した資料は、間違いなく元親書状の原本でした。何より驚いたのは、素人とは思えないA氏による美しい梱包、そして学芸員並の取扱いの丁寧さでした。「元親公の遺品を所蔵する者として当然です…」とこやかに話すA氏でしたが、自宅は震災でひどい状態になっていたのです。しかし、すばやい対応で資料を守っていたのだとおかげで、この書状は救われました。

縁あって四百数十年ぶりに岡豊に還ってきた元親の書状。守って下さったその思いとともに大切に管理してまいります。

(野本)



震災から守られた元親書状（天正12年頃）

民俗

郷土玩具とともに

郷土玩具に魅せられて長年にわたって収集を続けてこられた山崎茂さんが、本年1月4日、ご逝去されました。91歳でした。

山崎さんは約1万2千点の郷土玩具コレクションを作り上げ、「集めた人形を皆さんに見ていただくのがうれいんです」と、そのすべてを当館にご寄贈くださいました。膨大な数なので現在も運搬作業を続けていますが、慈しんできた人形の落ち着く先が決まったと、喜んでくださっていました。

人形部屋を訪ねると、「よう来たねえ」と迎えてくださった優しい笑顔が思い出されます。郷土玩具についていろいろとお教えいただきましたが、もっとお聞きしておけば良かったと残念でなりません。「棺には人形をひとつも入れてくれな」と言い

遺されていたと、ご家族にうかがいました。その言葉ひとつにも郷



山崎茂さん 平成14年 当館企画展示室にて

葉ひとつにも郷土玩具に対する山崎さんの思いがあらわれているように感じられます。山崎さんをしてのびつつ、夏の企画展「船のおもちゃ図鑑」の準備にとりかかります。(中村)

れきみんニュース

イメージソング
「おいでよ！れきみん」ができました

このほど当館では、PR活動の一環として、館およびマスコットキャラクター「若武者もとか君」をテーマにしたイメージソング「おいでよ！れきみん」を制作しました。制作にあたっては当館職員による作詞・作曲・歌・演奏のほか、地元の岡豊小学校4年生のみなさんに元氣いっぱいのコーラスで参加していただき、一度聞いたら忘れられない明るくポップな歌に仕上がっています。今後、イベントや館の広報活動に活用していきます。お楽しみに。

(事業課 筒井啓一郎)



「おいでよ！れきみん」
CDジャケットレーベル



岡豊小学校4年生のみなさん

「長宗我部元親と土佐の戦国史跡巡り」第2弾開催決定！

平成23年度に圧倒的好評を博した「土佐戦国の山城を巡る〜長宗我部元親とゆかりの地・七守護巡り」の平成24年度、第2弾の開催スケジュールが決定しました！

(猪野)

◆平成24年度の予定

- ① 本山市……4月29日(日・祝)
- ② 高知市……5月13日(日)
- ③ 南国市……9月30日(日)
- ④ 中土佐町……10月14日(日)
- ⑤ 土佐市……11月3日(土・祝)
- ⑥ 四万十市・宿毛市 1泊2日
11月22日(木)～23日(金・祝)
- ⑦ 香美市・香南市…1月20日(日)
- ⑧ 津野町……2月17日(日)
- ⑨ 安芸市……3月3日(日)

※申し込みは
土佐電トラベル
088-882-0111迄
各回定員40名、先着順です。



平成23年度第1回「岡豊城跡から元親初陣の地を巡る」

平成23年度の学校向け教育普及事業

平成23年度は、小中学校・高等学校が総数45校、生徒数2269名、引率教員170名が来館されています。来館校対象のメニューは、館内の展示物の見学、クイズラリー、ポイント解説、ビデオ視聴、岡豊山(望槽)、民家、体験学習(①火おこし②勾玉づくり③昔あそび④よろいかぶと)等が中心です。

また、当館職員が依頼のあった学校に道具を持参し、体験学習を行なう出張授業も実施しました。①火おこし体験②勾玉づくり③昔あそび④よろいかぶとを身につけよう⑤昔のくらし⑥坂本龍馬について(授業)が主な内容となっています。香美市須崎市、高知市周辺等の十数校からのリクエストに応え、各校を訪問させて頂きました。平成23年度は13校(生徒数715名、教員27名)で実施しました。

先生方からは、「博物館に来館することにより『空気』『空間』『たまたま』を体感的に感じられた」、「学校の教室では得られないものに自由に関わることができる、生徒にとって知的好奇心をくすぐられる場」、「出張授業では、学校ではできない

資料の活用工夫、現地学習と関連づけた学習、人とかかわりによって学習効果が向上した」などの手ごたえや実感の声をいただきました。

学校と博物館の連携の形として、社会見学としての利用、教科・単元にもとづいた学習など、学校・博物館が互いに理解され共有された学習の場となるようにしていきたいものです。

(寺川)



体験学習室でよろいかぶと体験

岡豊山フォトコンテスト

4月14日(土)まで あなたの写真を募集中!
全作品展示
5月3日(木・祝)～6月10日(日)

第三回 長宗我部フェス

5月19日(土) 10:00～16:30

戦国市場・長宗我部TERAKOYA・城跡探訪ラリー・
仮装コンテスト・対談ライブほか

歴民歴史講座

「土佐・源平の動きと平家の落人」

●特別講演「清盛のめざしたもの」

高橋昌明氏 神戸大学名誉教授
(NHK大河ドラマ『平清盛』時代考証担当)

5月12日(土) 13:30～

会場：当館多目的ホール

●6月から毎月第2土曜日 ※11月9日(金)をのぞく 宅間一之館長による連続講座スタート!

- ①6月9日(土) 時代は武士の世に
 - ②7月14日(土) 鎌田冠者希義土佐で挙兵
 - ③8月11日(土) 夜須七郎行宗と琳猷上人
 - ④9月8日(土) 四国山中落人の道をたどる
 - ⑤10月13日(土) 安徳天皇の四国潜幸秘史
⑤は講師 細川幹夫氏 麗澤大学名誉教授
 - ⑥11月9日(金) 横倉山安徳天皇御陵参考地と
その周辺を訪ねて(現地見学)
 - ⑦12月8日(土) 安徳天皇御陵及び参考地と伝承地
 - ⑧1月12日(土) 土佐源平争乱期の史跡を巡る
(現地見学)
- ⑥⑧以外は10:00～ 定員50名(先着順)

臨時休館のお知らせ

燻蒸のため6月21日(木)～6月30日
(土)は休館します。

無料	観覧料	休館時間	開館時間	〒783-0044	編集発行	平成24年3月31日	岡豊風日(おこうふうじつ) 第78号
料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)	450円・団体(20人以上)360円 (企画展・常設展示)500円・団体(20人以上)400円	午前9時～午後5時 年末年始12月27日～1月1日 臨時休館あり	午前9時～午後5時	南国市岡豊町八幡1099-1	高知県立歴史民俗資料館	TEL 0888(862)2211	
				TEL 0888(862)2110			

印刷：川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール：rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

蔵のなかの民具たち

2012年 4月28日(土)
～6月10日(日)

近年生活の変化や世代交代のため、蔵の中にあつた民具の収集が増えました。お客の道具や着物など蔵にあつた民具を展示し、蔵のあつた暮らしを再考します。



さしみ皿

特別公演 ●要申込

いざなぎ流 えびすの倉入れ 5月4日(金・祝) 13:30～
なかなか見ることのできない行事を岡豊山歴史公園内の民家で再現します。

展示室トーク ●予約不要。4月28日は観覧券要(講師:担当学芸員)

4月28日(土) 14:00～15:00

5月3日(木・祝) 11:00～12:00

史跡めぐり ●要申込・参加費要

「蔵の里めぐり」 5月20日(日)

旧大橋高校 民俗資料一般公開

6月2日(土)・3日(日) 入場無料

旧大橋高校に保管している館蔵の民俗資料を特別に公開します。

歴民館の名品紹介

—最近の収蔵資料から—

4月28日(土)～5月20日(日)

(社)日本甲冑武具研究保存会広島県支部の方からご寄贈・ご寄託いただいた兜の優品を集めた特別展示を3階近世コーナーで行います。また、昨年度に新聞等で報道された「伊達政宗自筆書状」を初公開するほか、勤王党员・谷作七の遺品、後藤象二郎肖像写真なども併せて公開します。



六十二間小星兜
(個人蔵)

コーナー展

予告

企画展

船のおもちゃ図鑑

7月20日(金)～9月2日(日)

山崎茂さんのコレクションから船の郷土玩具を紹介。沖縄のハーリー船や京都の船鉾、和歌山や高知の鯨船など日本各地に伝えられた船の文化を反映するおもちゃを展示します。



宝船 下川原焼(青森)

特別展

平成24年度 高知・岡山文化交流事業 I

刀 武士の魂

—備前の名刀と土佐ゆかりの刀剣—

10月6日(土)～11月4日(日)

3階総合展示室・1階企画展示室
※1階の「堀見家の刀剣」は12月23日(日)まで

歴民の日 5月3日(木・祝) 観覧料は無料です

- 長宗我部氏の武将になろう 9:00～16:00 ※5月5日(土・祝)も同時時間で実施(予約不要)
- 折り紙でかっこいい兜をつくろう 13:30～15:30 (予約不要)
- 土佐民話の家④長者の話(お話 市原麟一郎さん) 14:00～15:00 (要予約)